



# グローバルPBL体験談

実施年度	2020年度
プログラム連番	191
実施形態	オンライン
担当教員	情報工学科 木村 昌臣先生 情報通信工学科 堀江 亮太先生 森野 博章先生
実施期間	2021年3月11日～3月18日
実施協定校	スラナリー工科大学(タイ)

# 参加学生体験談（要旨）

情報工学科	3年	<p>私は日常的に英語を使っている留学生なので、語学的な意味での成長は感じなかったが、他の国の人と会って、違う考え方の人と話せる機会としてはとてもよかったです。私が参加したのはタイの国立公園の環境問題を解決するという難しい内容で、毎日グループでディスカッションをしました。</p> <p>あまり外国人と話したことがない人も、ぜひ一度参加して、チームメンバーと雑談してみてください。英語力が心配な人はグループメンバーにゆっくり話すようにとったり、もう一度説明してもらったりすればきっと大丈夫です。</p>
情報通信工学科	3年	<p>私は英語が得意ではなく、英語への苦手意識を無くしたいという思いからgPBLに参加したいと考えていました。今回、オンライン実施のため費用や準備時間などの面で参加のハードルが低かったこともあり、このプログラムに参加しました。</p> <p>実際のプログラムでは、タイのカオヤイ国立公園における生態系についての問題を解決するための考え方である“Design Thinking”について学びました。</p> <p>その後“Design Thinking”にのっとり、ゴミが動物に悪影響を与えていることや、動物と車の事故など、国立公園で起こっている問題に対しての解決策をグループで相談し提案しました。</p> <p>オンラインでのコミュニケーションは、対面とくらべて伝えるための手段が限られています。電子ホワイトボードなどを活用することで自分の考えを伝えることができました。また、たどたどしい英語でも伝えたい意思があれば伝わるということが実感できました。反対に、相手の意見や質問を聞き取り理解することが難しく、リスニング能力の重要性を感じました。</p> <p>8日間という短い期間ではありましたが、今後の学習のモチベーションになる貴重な経験をすることができました。</p> <p>英語が苦手でも、会話したいという意思を強く持っていれば問題ありません。オンラインということもあり参加のハードルは低いので、興味があればぜひ参加してみてください。</p>